

キャリア教育の実践

明和町立明和東小学校

「人間関係形成・社会形成能力」の育成

縦割り活動(異学年交流)

本校は児童数が少ないので登校班、清掃活動、遠足(学年ブロックで実施)、運動会の紅白の団などはもちろん、休み時間の遊びに至るまで異学年で活動する機会が多い。その一つ一つを縦のつながりを強める絶好の機会と捉え、活動が成長につながるように準備や支援をして実践している。また2学期になり、学習の成果を伝え合う異学年交流も盛んに行われている。3年生が国語の学習でまとめた『ブックトーク』を1、



〔3年生によるブックトーク〕

2年生に向けて発表したり、『ブックトーク』をしてもらった2年生が、今度は1年生に『音読劇』を見せたり、5年生が4年生に英語科の授業で作った『手作りの英語の絵本』を読み聞かせたりしている。上級生との交流を通して、「あんなことができるようになりたい。」と大きくなった自分の姿を思い描いたり、「自分たちも小さい子に教えたり楽しませたりしたい。」と今学習していることに意欲的に取り組んだりする姿が見られる。

地域との連携



〔高跳び指導ボランティア〕

〔製作ボランティア〕

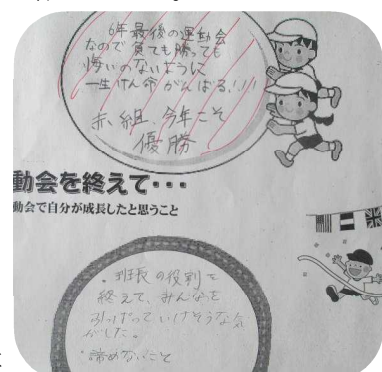
〔読み聞かせボランティア〕

生活科や総合的な学習の時間、3年生の社会科の地域学習、家庭科の調理や裁縫、毛筆やそろばんの指導、朝読書の読み聞かせなど、保護者や地域の方にボランティアを募り、学校の教育活動や授業に積極的に参加していただいている。10月に実施された陸上記録会の練習では、陸上競技を経験した保護者の方が高跳びの指導をしてくださり、今年も2名の児童が県大会に出場することになった。こうした活動を通して、自分たちの住んでいる地域にすばらしい指導者が存在することを知り、地域を見直すきっかけにもなっている。また、地域の方も学校の教育活動に関心を持ち、学校公開や学校行事に参加してくださる方も増えてきた。

「自己理解・自己管理能力」の育成

学校行事の目標カード

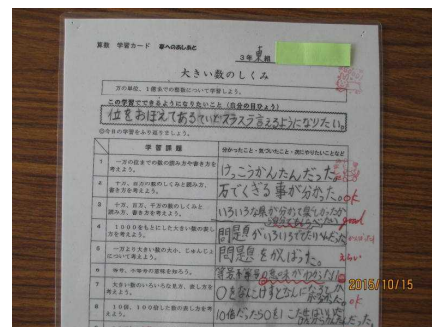
学校行事は自分を理解したり高めたりするよい機会と捉え、学校行事を行う際には自分の目標をしっかりもたせて取りまわせるようにしている。目標を書くカードには事後に振り返りを書く欄を設けた。カードに振り返り欄があることで、行事を通して身に付けたことや成長したことを書くということを意識して行事



に取り組むことができる。上級生は、どの行事も自分を成長させる意味のあるものであることを理解してきている。 **【振り返りのある目標カード】**

「夢へのあしあとシート」

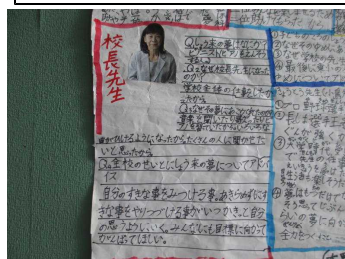
各学年で国語や算数を中心に「夢へのあしあとシート」を実践している。単元の学習内容と毎時間の課題が書かれており、児童が毎時間の学習感想を書くための学習履歴シートである。児童はシートをもとに単元全体や各時間の見通しや目標をもって学習に臨み、授業の最後に振り返りを記入することによって、学習内容の定着を自ら確かめたり自分の変容を感じたりと自分を客観的に見つめている。単元全体が終わったとき、児童はシートを読み返し、「次の学習は頑張るぞ」、「次もこの調子でいきたい」と新たな学習への意欲を高めたり、自己理解を深める助けとなったりしている。特に配当時間の多い単元は、新たな知識や技能をたくさん身に付け、自分の力がレベルアップしていることを実感する児童が多い。



ト

「キャリアプランニング能力」の育成

先生方のキャリアの履歴の掲示



身近な校内ハローワークとして先生方を対象に、「小学生の頃の夢」「先生になったわけ」「仕事をしていてうれしいこと」「大変なことや頑張っていること」「今の夢」「小学生の今、ぜひやってほしいこと」などを取材し、写真と共に掲示した。児童は関心をもって掲示物を読んだり興味をもった内容について先生方に質問したりする様子が見られるようになった。

夢の発表(キャリア集会)と絵の展示

夏休み中に町の募集で描いた「ぼくの夢・わたしの夢」を紹介するキャリア教育の集会を実施した。クラス1名の代表児童に「将来の夢」「その夢をもったわけ」「そのために今頑張っていること」をインタビューした。8名の児童は、自分の将来の姿を描いた絵を見せながら、3つの質問にはっきりと答えることができた。また、聞き手の児童も真剣に耳を傾けていた。最後に校長先生の『今やっていることに精一杯取り組む』こと、『友達と仲良く力を合わせて頑張ることが大切』というお話を聞き集会を終え **【キャリアの集会 将来の夢】** た。児童の描いた夢の絵は、キャリア掲示板に集会の様子とともに展示し、夢について考えるきっかけとなっている。



小中の連携



〔中学校教師による絵画指導〕 中の絵に生かそうとしていた。

校内絵画展の作品制作に向けて、明和中学校の美術の先生を招き、読書感想画の指導を受けた。先生自らが描いた絵を見せながら、絵の具やクレヨンなどの画材の使い方などを熱心にわかりやすく指導して下さった。子ども達は、中学校の美術の先生、自分のお兄さんやお姉さんが習っている先生ということで真剣にそして意欲的に学習していた。授業後は、「すごくよくわかった。」「教えてもらってよかった。」と学んだことを制作